



厚真中学校生徒会長
Vol.38 こやま そうた
小山 蒼太さん

西日がまぶしい校舎2階のホールに、厚真中学校生徒会執行部の活気ある会話が響いています。中心でさまざまな声に耳を傾けるのは、3年生の生徒会長、小山蒼太さんです。意見を出し合いながら、楽しい学校生活を送りたいと、活発なコミュニケーションに力を入れています。学校の図書室で小山さんに話を聞きました。

笑顔があふれる学校に

生徒会活動の中で、先輩から引き継ぎ力を注いでいるのが「ピンクシャツ・プロジェクト」です。平成19年、カナダの中学3年生の男子生徒が、ピンク色のシャツを着て登校した時に暴力を振るわれるいじめが起きました。それを知った上級生が、いじめをなくすため、他の生徒に呼び掛けてピンク色のシャツなどを着て登校するように呼びかけると、多くの生徒が賛同しはじめがなくなったという運動です。「多感な時期にいじめ問題を意識しよう」と、厚真中学校でもプロジェクトが受け継がれています。

校内でいじめが問題になっている訳ではありませんが、「みんなでいじめ問題を意識することで、いじめを抑止できると思っています」と小山さんは説明してくれました。また、いじめ問題に対して生徒一人ひとりがピンク色のシャツ型カードにメッセージを書いて貼り、町内の小学校や公共施設に掲示しています。「学校にとどまらず、僕たちの活動を、広く町民の皆さんにも知ってもらえたらと考えました。そして、メッセージを通して、思いやりの気持ちが広がるいいなとも思っています」。

「おはようございます」「こんにちは」。生徒は通学中、すれ違う人に率先してあいさつします。生徒会で取り組むあいさつ運動です。「年代を問わず、気さくに応えてくれます。返答のあいさつから感じる人の優しさ」が、厚真の魅力の一つです。

小山さんは、生徒玄関にあった目安箱を撤去し、各教室に置きました。その結果、問題提起やアイデアなど、さまざまな意見が投函されるようになりました。互いを認め合う雰囲気、学校生活の中で強まっていると感じています。

「みんなで力を合わせて笑顔あふれる学校にしよう」。リーダーシップを発揮します。

厚真で暮らす人、働く人、応援してくれる人、訪れる人・・・
みんな、みんな、**ATSUMA LOVERS**